

Ⅱ. 調査・研究について

1. 各国医療情報の収集と情報提供

国別医療情報の収集・データベース化・情報の提供

国際疾病センターの設立に伴い、調査課では、各国の衛生・医療情報に関する情報を外務省在外日本公館・WHO等の在外機関を始め、国内においても感染症研究所・検疫所等から収集を行った。また、協力局からプロジェクトリーダー等の専門家が派遣されている国の生活習慣等の詳細や日常の生活風景を派遣課員のコメントを加えて、渡航者健康管理室を通じ、国民の皆様に情報を提供している。

お問い合わせ先: 渡航者健康管理室 電話03-3202-1012
(受付時間: 平日、月～金 8:30～15:00)

海外渡航と 病気の予防	受診される方へ	Q & A	国別情報	渡航者健康管理室について (トラベルクリニックとは)	お役立ち情報
----------------	---------	-------	------	-------------------------------	--------

>> サイトマップ

国立国際医療センターTOP > 国際疾病センター渡航者健康管理室

渡航者健康管理室へようこそ

国際疾病センター渡航者健康管理室では、長期の海外渡航における衛生面や健康面などでのさまざまな不安や問題に対し、渡航前後における万全のサポート体制を提供いたします。

海外旅行と病気の予防 >>

感染症や予防接種、健康診断など、海外渡航にあたっての健康管理に関する基礎情報を提供。

受診される方へ >>

健康診断、予防接種などの診療、健康相談を受けられる方への診療案内。

よくある質問 (Q&A) >>

知りたいこと、疑問に思うことなど、まずはここから。

国別情報 >>

各国の衛生・医療事情などの情報、現地派遣員からの情報の提供。

渡航者健康管理室について >>

トラベルクリニックおよび渡航者健康管理室の概要について。

お役立ち情報 >>

海外渡航に関するお役立ち情報の提供およびお役立ちサイトへのリンク集

お問い合わせ先: 渡航者健康管理室 電話03-3202-1012
(受付時間: 平日、月～金 8:30～15:00)

海外渡航と 病気の予防	受診される方へ	Q & A	国別情報	渡航者健康管理室について (トラベルクリニックとは)	お役立ち情報
----------------	---------	-------	------	-------------------------------	--------

>> サイトマップ

国立国際医療センターTOP > 国際疾病センター渡航者健康管理室 > 国別情報 > アフガニスタン

国別情報INDEXへ

- >> アフガニスタントップへ
- >> 日常の生活風景
- >> 派遣員コメント

アフガニスタン・イスラム国

— 日常の生活風景 —



地方の村



地方ではらくだが活躍



カブール市内の交通渋滞



カブール市内の店



山の上まで家(カブール市)



マザリシャリフ中央モスク

国立国際医療センター 国際疾病センター 渡航者健康管理室 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 電話03-3202-1012
Copyright(C)2005 International Medical Center of Japan/Disease Control and Prevention Center. All rights reserved.

2. 国際医療協力研究委託費

国際医療協力研究委託費は、国際医療協力に関する研究の向上を図り、国際医療協力の効果的かつ効率的な推進に資することを目的として、1990年度に創設された。

研究分野としては、主に、開発途上国に多く見られるマラリアやその他の寄生虫疾患の病態や対策等に関する専門的研究、ポリオ撲滅や結核対策に関する研究、地域保健医療システムの強化や人材育成のあり方等に関する研究、開発途上国の社会科学的要因の解析に関する研究が対象となる。

この研究委託費は、年度ベースで運営され、国際医療協力局の計画課が関係事務を行っている。

(1) 研究課題一覧

平成17年度の研究課題は、指定研究7課題、公募研究15課題の合計22課題となっている。

図1 派遣課員が参加している研究課題名

課題番号	研究課題名	主任研究者名
15指1	国際医療協力のネットワーク構築に必要な情報システムの確立に関する研究	建野 正毅 (国立国際医療センター)
15指2	重症急性呼吸器症候群（SARS）対策に関する緊急研究	小原 博 (国立国際医療センター)
15公1	保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究	中村 安秀 (大阪大学大学院)
15公2	開発途上国への内視鏡技術移転及びその精度管理手法開発に関する研究	上村 直実 (国立国際医療センター)
15公3	開発途上国におけるHIV感染者に対する多剤併用（HAART）療法の薬剤感受性試験及びモニタリングシステム構築に関する研究	岡 慎一 (国立国際医療センター)
15公4	技術協力を通じた開発途上国のハンセン病対策向上に関する研究	前田 光美 (国立駿河療養所)
15公5	薬剤耐性化が進む国際的に重要な感染症の予防・治療のためのワクチン及び化学療法薬開発とその応用に関する研究	切替 照雄 (国立国際医療センター)
15公6	開発途上国におけるDOTS（直接監視下治療法）をモデルとしたプライマリヘルスケア体制の確立に関する研究	須知 雅史 (結核予防会結核研究所)
16指1	ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究	仲佐 保 (国立国際医療センター)

課題番号	研 究 課 題 名	主任研究者名
16指 3	政策医療（国際医療協力分野）における渡航者健康外来の体制構築に関する研究	金川 修造 (国立国際医療センター)
16公 1	開発途上国の住民に資するマラリア対策及び社会技術の開発に関する研究	狩野 繁之 (国立国際医療センター)
16公 2	小児疾患包括的対策（IMCI）の効果的な実施及びモニタリング評価に関する研究	庵原 俊昭 (三重病院)
16公 4	開発途上国における救急医療と災害医療の組織化に関する研究	木村 昭夫 (国立国際医療センター)
17指 1	海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディー	工藤宏一郎 (国立国際医療センター)
17指 2	国際医療協力を携わる人材養成および登録システムの構築に関する研究	中村 安秀 (大阪大学大学院)
17指 3	技術協力プロジェクトの効果的な実施に関する研究	上原 鳴夫 (東北大学大学院)
17公 1	国際医療協力における包括的な生活習慣病予防活動のあり方に関する研究	加藤 規弘 (国立国際医療センター)
17公 2	開発途上国におけるリプロダクティブヘルスとHIV/AIDS対策の統合的推進に関する研究	木村 哲 (国立国際医療センター)
17公 3	途上国における社会開発技術・地域保健システムの強化に関する研究	建野 正毅 (国立国際医療センター)
17公 4	拡大予防接種計画（EPI）強化プロジェクトのフォローアップに関する研究	堤 裕幸 (札幌医科大学)
17公 5	途上国における女性（母子保健）と子ども（学校保健）の参加による健康教育の方策に関する研究	竹内 勤 (慶應義塾大学)
17公 6	開発途上国の地域看護のあり方に関する研究	田代 順子 (聖路加看護大学)

(2)市民公開講座の開催

国際医療協力研究委託費による研究成果を一般の国民に広く周知することを目的として、平成15年度より年1回、市民公開講座を開催している。

平成17年度は、当該年度に終了する研究課題のうち、評価委員会による評価が良好な課題及び国民の関心が高いテーマを設定し、「エイズ・結核・SARSそして鳥インフルエンザ」と題して開催した。



市民公開講座の様子

3. 国際医療協力に関する研究活動

派遣協力課の所掌業務は、「海外へ技術者を派遣し、医療に係る国際協力に関する調査及び研究並びに研修を行うこと」であり、「調査・研究」は「派遣」や「研修」とともに協力局の重要な活動のひとつとなっている。派遣協力課課員は、研究者としてよりも、実践者の立場で研究に携わっており、国際協力を実践する中での経験を通して研究を行っているといえる。大半の研究は、派遣協力課が何らかの形で関わったり、もしくは関わっていたりする技術協力プロジェクトを題材に実施されているが、最近ではこの傾向がますます強くなり、プロジェクト活動の一環として、もしくはプロジェクトを理論的にサポートする形での研究が増えてきている。以前は、データが欲しいためにプロジェクトを利用する研究が見られたが、現在では殆どなくなり、研究そのものがプロジェクトの目指す技術移転や自助努力を支えるという研究と実践が“協力関係”にある研究活動が大半を占めている。

研究グラントは、厚生労働省の国際医療協力研究委託事業によるものであるが、一部は厚生労働省の共同臨床研究事業や厚生労働科学研究事業がある。平成17年度の国際医療協力委託研究事業として派遣協力課課員が主任もしくは分担研究者として係った研究の課題名並びに分担研究課題名を（図1）に示した。主任もしくは分担研究者になっていない課員は、基本的には分担研究者の研究協力者の形で研究活動に参加している。

国際医療協力研究委託事業では、その性格からして、途上国での調査研究が主となるために、研究のための海外への出張が増加しており、平成17年度は31件に達した（図2）。訪問国は、アジアが中心であるが、アフリカ、中南米の国も含まれており、現在もしくは過去に技術協力プロジェクトを展開していた国が大半である。

2000年に開催された国連総会で「ミレニアム開発目標（MDGs）」が採択され、貧困削減が開発協力の中心テーマとなり、農村開発、教育支援、保健医療プロジェクト等の貧困者や社会的弱者に直接裨益する協力、いわゆる「社会開発」が開発協力の主流になりつつある。保健医療分野における協力でも、貧困削減やコミュニティ開発など社会開発的なプロジェクトが要求されてきている。診断治療技術等の医学的対策や研究では、不十分で、社会に対しての働きかけ、すなわち社会的対策や研究と連携したプロジェクトが必須になってきている。保健医療分野を切口とする国際協力は、従来、Vertical Programが主流であり、また、「医学」中心の技術移転が大半を占めてきたが、あらたな援助課題として登場してきた貧困、環境、人口、開発と女性（WID）、人権、市場経済化支援などグローバルな課題へ対応するためには、保健医療の分野でも包括的かつ横断的なアプローチが強く求められるようになった。例え、疾患対策であっても、従来の診断技術、ワクチン、治療法等の既存の有力な手段に疾病生態学の推進や病原体に対する新しい有力な手段の開発等を加えた医学研究だけでは、途上国では失敗する確率が高いことは、多くの教訓が明らかにしている。保健医療分野の開発協力でも、医学的研究に加えて、保健政策、行動科

学、社会学、マネジメント、ヘルスプロモーション等の社会学的研究が必須であり、地域開発等の分野では特に顕著である。途上国のヘルスシステムの強化にどのような「社会開発技術」が必要であるかという観点からの研究課題が増えてきている。

協力局が関わる技術協力活動も、20年間の現場を中心とした活動経験から、病院、疾患指向型から地域づくり型、システム構築型、ヘルスプロモーション型のプロジェクトへ変わってきており、途上国の現場でも「社会開発技術」に対するニーズが高まっている。保健医療分野における開発協力では、医学的研究は勿論のこと、保健行政、行動科学、マネジメント、ヘルスプロモーション、人口・社会科学、人間の安全保障など社会学的研究が強く求められている。

この流れを受けて、平成17年度の新規課題の多くが社会科学色彩の強い課題であり、現場の求めに応じた研究になってきている（図3）。これらの傾向は今後ますます強化されていくものと考えられる。

(1)【国際医療協力研究委託事業（以下国際委託費）15指1】：国際医療協力のネットワーク構築に必要な情報システムの確立に関する研究

主任：建野正毅、国際医療協力のネットワーク構築に必要な情報システムの確立に関する研究

分担：石川典子、国際医療協力のネットワーク構築に必要な情報システムの確立に関する研究

(2)【国際委託費15指2】：重症急性呼吸器症候群（SARS）対策に関する緊急研究

主任：小原博、重症急性呼吸器症候群に対するモデル病院構築に関する研究

(3)【国際委託費15公1】：保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究

分担：仲佐保、国際保健の立場からみた保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究

(4)【国際委託費15公2】：開発途上国への内視鏡技術移転及びその精度管理手法開発に関する研究

分担：秋山稔、ボリビアへの内視鏡技術移転及びその精度管理手法開発に関する研究

(5)【国際委託費15公3】：開発途上国におけるHIV感染者に対する多剤併用（HAART）療法の薬剤感受性試験及びモニタリングシステム構築に関する研究

分担：向山由美、HAART療法のモニタリングシステム構築に関する研究

(6)【国際委託費15公4】：技術協力を通じた開発途上国のハンセン病対策向上に関する研究

分担：石田裕、開発途上国におけるハンセン病対策の住民の能力開発のために保健職員に求められる能力の明確化とトレーニング技術の開発

(7)【国際委託費16指1】：ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究

主任：仲佐保、ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究

- 分担：明石秀親、MDGsのための人材養成にかかる問題点の分析
- (8)【国際委託費16指3】：政策医療（国際医療協力分野）における渡航者健康外来の体制構築に関する研究
- 分担：稲葉淳一、国内データベースの構築に関する研究
- (9)【国際委託費16公2】：小児疾患包括的対策（IMCI）の効果的な実施及びモニタリング評価に関する研究
- 分担：岩本あづさ、小児疾患包括的対策（IMCI）のモニタリング評価に有効な指標に関する研究
- (10)【国際委託費17指1】：海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディー
- 分担：建野正毅、海外拠点の形成に関する研究
- (11)【国際委託費17指2】：国際医療協力を携わる人材養成および登録システムの構築に関する研究
- 分担：三好知明、国際医療協力を携わる登録システムの構築に関する研究
- (12)【国際委託費17指3】：技術協力プロジェクトの効果的な実施に関する研究
- 分担：稲葉淳一、情報データベースの入力システムと維持・活用に関する研究
- (13)【国際委託費17公2】：開発途上国におけるリプロダクティブヘルスとHIV/AIDS対策の統合的推進に関する研究
- 分担：垣本和宏、途上国における母子保健サービスの中でのHIV母子感染予防対策強化に関する研究
- (14)【国際委託費17公3】：途上国における社会開発技術・地域保健システムの強化に関する研究
- 主任：建野正毅、保健システム強化に向けた国際医療協力のあり方に関する研究
- 分担：明石秀親、保健医療サービスのデリバリーシステムに関する研究
- 分担：西田美佐、自立発展性のある組織づくりに関する研究
- (15)【国際委託費17公4】：拡大予防接種計画（EPI）強化プロジェクトのフォローアップに関する研究
- 分担：正田和夫、中国北西地域におけるEPI強化
- 分担：小林誠、パキスタンのポリオ根絶計画とEPIの強化
- 分担：帖佐徹、未登録人口層児童の把握に関する研究
- (16)【国際委託費17公5】：途上国における女性（母子保健）と子ども（学校保健）の参加による健康教育の方策に関する研究
- 分担：小林潤、アジアの学校保健政策、行政等の調査；参加型学校保健による感染症対応パッケージ開発；健康教育モデルの種々の感染症制圧への応用
- 分担：杉浦康夫、ラオスでの健康記録ノート導入による母子健康増進についての介入研究、学校保健との連携による健康教育モデルの作成

(17) 【厚生科学―新興―22】：マラリアの感染予防及び治療に関する研究

分担：小林潤、国外におけるマラリア流行調査

図2 研究調査（31件）

出張者	出張国	出張件名	出発年月日	期間
建野正毅 稲葉淳一	ベトナム	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2005/06/27	7
岡林広哲	ラオス	国際委託費（16指1）ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究	2005/07/13	12
杉浦康夫	ラオス	国際委託費（17公5）途上国における女性と子どもの参加による健康教育の方策に関する研究	2005/07/30	6
石田 裕	ミャンマー	国際委託費（15公4）技術協力を通じた開発途上国のハンセン病対策向上に関する研究	2005/08/07	7
建野正毅 石川典子 稲葉淳一	ベトナム	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2005/08/14	6
明石秀親	カンボジア	国際委託費（17公3）保健医療サービスのデリバリーシステムに関する研究	2005/09/14	10
仲佐 保	ホンジュラス	国際委託費（15公1）国際保健の立場から見た保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究	2005/09/15	13
小林 誠	パキスタン	国際委託費（17公4）パキスタンにおける定期接種強化の試み	2005/09/26	12
小林 潤	タイ	国際委託費（17公5）途上国における女性と子どもの参加による健康教育の方策に関する研究	2005/10/01	6
帖佐 徹 石田 裕	タイ	国際委託費（16指1）ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究―総括	2005/10/09	8

出張者	出張国	出張件名	出発年月日	期間
垣本和宏	カンボジア	国際委託費（17公2）途上国における母子保健サービスの中でのHIV母子感染予防対策強化に関する研究	2005/10/10	12
石田 裕 向山由美 小西香子	タイ	国際委託費（16指1）ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究	2005/12/04	14
後藤美穂	マダガスカル	国際委託費（17公3）総括、保健システム強化に向けた国際医療協力のあり方に関する研究	2005/12/05	13
加藤紀子	ラオス	国際委託費（16公1）タイにおけるマラリア対策の社会技術開発研究	2005/12/07	15
帖佐 徹	ラオス	国際委託費（17公4）未登録人口層児童の把握に関する研究	2005/12/11	12
水野泰孝	ベトナム	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2005/12/17	7
小林 潤	タイ、カンボジア、ラオス	国際委託費（17公5）途上国における女性と子どもの参加による健康教育の方策に関する研究	2006/01/10	12
野崎威功真	バングラデシュ	国際委託費（16公2）小児熱性疾患の診断法の評価と普及システムの強化に関する研究	2006/01/14	13
石田 裕	ミャンマー	国際委託費（15公4）技術協力を通じた開発途上国のハンセン病対策向上に関する研究	2006/02/05	8
水野泰孝	ベトナム	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2006/02/05	9
小山内泰代	セネガル	国際委託費（17公3）保健システム強化に向けた国際医療協力のあり方に関する研究	2006/02/19	14

出張者	出張国	出張件名	出発年月日	期間
疋田和夫	中国	国際委託費（17公4）拡大予防接種計画（EPI）強化プロジェクトのフォローアップに関する研究	2006/02/27	10
向山由美	タイ	国際委託費（16指1）ミレニアム開発目標達成に資するわが国の基本戦略策定に関する研究	2006/03/05	14
稲葉淳一	ボリビア	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2006/03/21	10
建野正毅	カンボジア、ラオス、ベトナム	国際委託費（17指1）海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディ	2006/03/21	10

図3 平成17年度国際医療協力研究委託費新規研究課題

課題番号	研究課題名	研究目的
17指1	海外拠点を活用した共同研究と人材養成に関するパイロットスタディー	平成16年度研究“国際医療協力研究における効果的な介入技法に関するフィージビリティスタディ”の成果を実践するため、タイ・ベトナム等において海外拠点を活用した共同研究および人材の養成についてパイロットスタディーを行う。
17指2	国際医療協力に携わる人材養成および登録システムの構築に関する研究	政策医療としての国際医療協力を推進するために欠かせない、国際医療協力に携わる人材の養成のあり方を体系的に検討するとともに、それらの人材を効果的に活用するための登録システムの構築を目指す。
17指3	技術協力プロジェクトの効果的実施に関する研究	プロジェクトの内容をデータベース化し、業績を評価・分析することを通じて、途上国における国際協力を効果的に推進するために必要な提言を行う。又、案件発掘の際の事前評価、保健医療分野の広域協力をはじめとする後方支援のあり方についても検討を行う。

課題番号	研 究 課 題 名	研 究 目 的
17公 1	国際医療協力における包括的な生活習慣病予防活動のあり方に関する研究	途上国の貧困層においても急速に増加している生活習慣病に対し、包括的な生活習慣病予防戦略が必要であることに鑑み、日本の経験を踏まえた効率のよい対策を支援することを目的として糖尿病を中心に予防活動のあり方を検討しモデル事業を行う。
17公 2	開発途上国におけるリプロダクティブヘルスとHIV/AIDS対策の統合的推進に関する研究	途上国におけるリプロダクティブヘルスの推進にはHIV/AIDS対策が切り離せない重要課題となっている。これまで多くの場合、両者のプログラムの相互連携は行われていない。このため、HIV/AIDS対策がリプロダクティブヘルスのプログラムに統合され、実践されるための具体策を検討する。
17公 3	途上国における社会開発技術・地域保健システムの強化に関する研究	地域保健の担い手の業務の効率化・組織強化のための方策を地域横断的・統合的に検討し、途上国における地域の基礎的な保健サービスの向上のための社会開発技術のモデルを提案する。
17公 4	拡大予防接種計画（EPI）強化プロジェクトのフォローアップに関する研究	垂直プログラムを主体として実施されている拡大予防接種計画の持続性を確保するためには、母親や女性医療従事者の役割が重要視されている。このため、予防接種プログラムと母子保健プログラムとの連携を図るなど、今後の持続可能で効果的な統合の具体的モデルを提示する。
17公 5	途上国における女性（母子保健）と子ども（学校保健）の参加による健康教育の方策に関する研究	ラオスやタイで行われている広域寄生虫対策の社会開発技術をモデルとして、途上国における女性（母子保健）と子ども（学校保健）の参加による健康教育のあり方について研究を行う。
17公 6	開発途上国の地域看護のあり方に関する研究	途上国で主に住民に接し保健活動に取り組んでいる保健医療従事者の主体は看護職である。日本の保健師等による地域保健活動への貢献を元に、途上国における地域看護のあり方について研究を行う。